

手話で壊し、 手話で創る。



手話や「きこえない人」への誤解や偏見をなくしたい！
「きこえる人」と「きこえない人」が歩み寄れる世界を目指したい！
手話で「笑顔」を創り、手話で「心の壁」を壊したい！！

一般社団法人

手話エンターテイメント発信団 **Oioi** [オイオイ]

BARRIER CRASH

バリアクラッシュ

何故、分からない？
どうして、
分かってくれないの？

そこに“バリア”が
そびえ立つ！！

**仕事なんだから、
分からないことがあったら聞きにこい！**

「聴覚に障害があることは分かっている。だから言ってるんだ。会議などで分からないことがあれば聞きにこい、と。それが何だ。いつも曖昧に微笑むだけ。もっと心を開いて欲しい。我々はいつでも迎え入れる準備はできているのだから」。

職場に新しく配属されたのは聴覚障害のある新入社員。人事からは「彼の両耳の聴力は、ともに80デシベルだ」と説明を受けました。そもそも、この数字は何なんだ？ 高ければいいのか、低ければいいのか？ そうした説明など一切なし。当の本人も「全く聞こえていない訳ではない」と言います。確かに、配属当日に本人と面と向かって話をすると、ほぼ問題なく会話ができました。「ならば、もう少しコミュニケーションを取って欲

しい」と、上司は少し苛ついた様子で話します。一方、同僚は困惑した顔でこんな話を披露してくれました。

「彼に聴覚障害があることは知っています。ある程度は聞こえているようで、普通の会話なら問題ないはずですが。しかし、今日は機嫌が悪いのか、僕が声を掛けても全然反応しない。社会人たるもの、仕事にその日の気分を反映させるのはいかがなものでしょうか？ えっ？ 普段ですか？ 普段は決して失礼な男じゃありません。食事中でも、僕らの話は必ず箸を置いて、食べながら聞くなんてことはありませんからね」。

**男性とだけ会話して、女性は無視！
どう言うこと？**

別の職場では、こんなことも。先輩の女性社

員が、後輩の女性社員のことを苦々しい表情でこう話すのです。

「あの子、男性社員にニコニコしながら話をしていたの。私もその会話に加わろうと、後ろから話しかけたら、何よ、もう、完全に無視。男性社員と話すだけ話して、その場を去ろうと後ろを振り向いた瞬間『あっ、先輩！』だって。確かに、彼女に聴覚障害があることは知っていますよ。でも、聴力はそんなに悪くないはず。だって、男性陣とは普通に喋っているもの。それが私たち女性陣に対しては、コロリと態度を変えるのよ。もう嫌な女。女性陣を敵に回したらどれだけ怖いか、思い知らせてやるわ」。

気付いていますか？ これが“心のバリア”なのです。「みんな、よく言うんです。会議などで分からないことがあれば聞きにこい、って。言わせてもらえ

れば、聴覚に障害がある僕らにしてみれば、全てが分からない。今、上司が話をしているのが、雑談なのか、重要な報告なのか、それも分からない。結局は、全てを改めて聞かねばならないんです。それを上司は分かってくれているのでしょうか？ 特に分からないのは、職場全体で笑っているとき。そもそも何を喋っていたのかも分からないし、みんなが笑えば、その笑い声で、話がさらに聞こえなくなる。だから、私たちは時に曖昧に微笑むことしかできないのです」。

そう答えるのは、聴覚に障害のある新入社員です。彼は自らの聴覚に関して、こう説明しました。「僕の聴力ですか？ 左右ともに80デシベルです。この数値は大きいほど聞こえにくいことを表します。まず健聴者が聴き取れる最も小さい音が0デシベル。20デシベルの音ぐらいまで聞き取れれば正常の範囲内と言われています。大

声で話せばなんとか聞き取れる程度で60デシベル。電車がホームに入る音が感じられる程度が80デシベル。怒鳴り声や叫び声が聞こえる程度で90デシベル。このあたりの音が聞こえる人で高度難聴。耳元で叫ばれてようやく声が聞こえるのが100デシベルで、さらに、飛行機の爆音がようやく感じられる程度となると120デシベルとなり、こうした人は聾(ろう)・重度難聴と呼ばれるのです。“聞こえない人たち”と一言で言っても、実に様々なランクがあるんです」。

そして、こんな話もしてくれました。「さらに体調によって、聞こえ方が変わるんです。だから、昨日は聞こえていたのに、今日は聞こえないと言うこともあり、相手からすれば『昨日はあれだけ普通に会話できたのに、今日は何で聞こえないの？』となるわけですよ。僕は聞くことに対し

本当は、お互いがお互いのことを、もっと知りたいのです。しかし、そこには「偏見」だとか「無知」「誤解」と言ったバリアが立ちふさがるのです。そのバリアさえなければ、お互いはもっと歩み寄れるはずなのですが…。

て、多大なエネルギーが要るのです。例えば食事中。僕は自分の咀嚼音で他人の話が聞こえないんです。だから、食事中に話しかけられたらどうしようかと、気が気ではないのです」。

さらに、別の職場の女性社員はこう話します。「私、聴力で言うと、さほど悪いわけではありませんが、高音が聞き取りにくいのです。低音はある程度聞き取れます。なので、男性の声の方が聞き取りやすいんです。一方で、高い女性の声が苦手で、例えば、後ろから声を掛けられた際など、全く分からない時があります。決して無視しているわけではないですよ」。

ほら、ここにも、そこにも、かしこにも“心のバリア”が存在するのです。

BARRIER CRASH

バリアクラッシュ



まず、知ること
そして、気付くこと。
それで“バリア”を
ぶっ壊す!

まずは知ってください。気付いてください。少しだけでもいいのでコミュニケーションを取ってください。意外とそのバリアは低くて、もろい。おそらく、簡単に壊せるはず。私たちが一番恐れること、それは「無関心」なのです。

確かに、聞こえることは 当たり前すぎるのかも・・・

「そうか、君たちは我々の口もとを見ているんだね。聞き取るのではなく、読み取っているのか。それを口話法と言うんだね。だから一対一で、君に正対して座って面談した際には、ほぼ問題なくコミュニケーションが取れたわけか。その一方で、会議のような場では、大勢の口もとを読み取るのは難しいから、その議事の内容が分からないと言うわけなのか。

聴覚障害のある新入社員とゆっくりと面談をした後、上司はなるほどと言って膝を叩きました。そして、こう言いました。

「目をつむれば、一瞬とは言え、視覚障害者の世界は体験できる。車椅子に乗れば、とりあえず

身体障害者の視線を体験することができる。しかし、聴覚はそうはいかない。自分にとって、聞こえることが当たり前すぎて、聞こえないことへの想像力が足らなかったのかもしれない。それに、私は普段、自分の耳は普通に聞こえていると思っていた。でも、この普通って、何なんだろうね？ 同じ健聴者でも、おそらく誰もが同じように聞こえているとは限らない。それが聴覚障害者ともなればなおさらだろう。それぞれが、それぞれの聞こえ方をしていることに思いを巡らせておく必要があるのかもかもしれないね。

また、同僚はこう言いました。「そうか、聞くためには、実はエネルギーが必要なのか。彼らは多大な努力を払って、僕らの話を聞いているんだ。耳をそばだて、目は一生懸命僕らの口もとを読む。確かに大変なことだよな。そりゃ、エネルギーが切れた時には聞き取れないし、読み取れないよ

な。そうした日があることは、僕らは、理解しておかねばならないと思うな。

別の職場の女性社員は、頭を掻きながらこう話しました。「ええ～、低い音が聞こえて、高い音が聞こえないって場合があるんだ。そう言えば、彼女は電子レンジのチンという音や、タイマーなどのピピピビビといった音は聞こえないと言っていた。私、彼女から無視されていた訳じゃないのね。睨み付けて悪いことしたわね。ごめんなさい。反対に、高い音が聞こえて、低い音が苦手と言う人もいるの？ そうなんだ。一口に耳が聞こえないと言っても色々なパターンがあるのね。

そうなのです。まずは知ること。スタートはそこからです。

せめて、 顔をあげて話してくれたら

「皆さん、ありがとうございます。聴覚障害と言っても様々なケースがあることを、まず知っていただければ幸いです。聴覚障害のある新入社員は意を決し、職場のメンバー全員の前で、自らの障害に関して話し始めました。辛かったこと、苦しかったこと、そして、ありがたかったこと。時に笑いも交えながら、自らの障害を語ります。最初は緊張していたものの、職場のみんなが意外と素直に耳を傾けてくれたことから、思った以上に話すことができました。「僕は大きな音が鳴れば、その音が鳴った方を振り向きま。しかし、それだけをもって『聞こえているではないか』と決めつけないでください。音がしたのとは分かります。しかし、何の音までかは分かり

ません。同じように皆さんがお話しをしておられるのは分かります。しかし、何のお話しをしておられるかまでは分からないのです。

この日は、別の職場の、聴覚障害のある女性社員も発表しました。「確かに皆さんに手話を使っていたら、こんな嬉しいことはありません。しかし、ハードルが高いことも分かっています。筆談でもいいです。また、せめて、顔を上げてお話しただけだけでも嬉しいです。そして、ゆっくり、少し大きな声でお話しただければ随分と会話が進むと思います。あつ、そうか。実は、口話ができない人もいます。手話だってできない聴覚障害者もいる。聴覚障害者には様々な方がいらっしゃることをご理解いただきながら、ご協力のほど何とぞよろしくお願い致します。

話を聞き終わった後、上司はこう話しました。「私たちは、耳が聞こえない人たちをどれだけ理解しようとしていたのでしょうか？ 今日から少しずつでも良いので、お互いを知る努力、お互いの違いに、そしてお互いが何も変わらないことに気付く努力をしたいと思います。そして、こう締めくくりました。

「そのためには、手話エンターテインメント発信団oioiの活動を参考にしよう！」と！

手話エンターテインメント発信団oioi [オイオイ]

2005年から活動する、手話を使ったパフォーマンス集団。メンバーは聴覚障害者と聴者で構成され、その活動の範囲は多岐にわたる。その活動は「パフォーマンスの披露」から「ワークショップの展開」「イベントの開催」、メディア出演やSNSの発信、本の出版などの「情報発信」まで、とどまることが知らない。



PERFORMANCE

パフォーマンス

手話コント・手話歌、さらにカタチにとらわれない自由なパフォーマンスで、小さなお子様からご高齢の方々まで幅広い層のお客様に「笑い」と「手話の魅力」をお届けしています。

■ 主な依頼主 自治体・学校・手話関係団体・福祉施設 など



音楽業界など他のジャンルのパフォーマンスの方々とのコラボも積極的に展開しています。写真/コンテンポラリーダンスとのコラボ風景。



地域のお祭りやイベントにも、お声が掛ければ、いつでもどこでも駆けつけます。写真/大阪の「済美カーニバル」という地域のお祭りに出演。



時には当事者(きこえない人)だからこそできるブラックユーモアを交えたコントも行っています。写真/きこえないのに頑張ってくださいと、きこえないメンバーたち。

WORK SHOP

ワークショップ

手話エンターテイメント集団ならではの「楽しい体験」と「学び」を大切に、さまざまなワークショップを開催しています。

■ ノンバーバル・コミュニケーション講座

コミュニケーションは、何も「言葉」だけではありません。言葉に頼らないノンバーバル(非言語)・コミュニケーションの重要性を体感できる講座です。「きこえない人」とのコミュニケーションのためだけでなく、日常生活においてもすぐに生かせるスキルを楽しく身につけていただくことが可能です。

■ 手話パフォーマンス講座

手話経験のない方でも参加していただけるパフォーマンス講座。「手話」を覚えると同時に「表現力」も高めることができます。



「福祉」と言う視点だけでなく、企業の人材を対象とした集合研修にも導入いただいております。



EVENT

イベント

「手話」や「手話エンターテイメント」の魅力、「きこえない人」への理解をさらに広めるため、さまざまなイベントを開催しています。

■ With Festa

年に1回開催する関西の学生が手話パフォーマンスの腕を競い合う大会です。毎年、10校以上の高校・大学の手話サークルが参加します。

■ MEETs

「コミュニケーション変革」を目的とした二泊三日の合宿です。合宿の期間中、声を使わずに環境の下で手話パフォーマンスを創って発表していただきます。参加者はノンバーバル・コミュニケーションだけで意思疎通を図らなければなりません。



イベント参加者からは「手話やきこえない人に対するイメージが変わった」「手話を身近に感じた」などの声をいただいております。

INFORMATION

活動情報

「手話」や「きこえない人」のことをSNSを通して、積極的に情報発信しています。メディア出演も増えていて、少しずつですが認知度はアップしていると自負しています。

■ 大阪府障がい者サポートカンパニー優良企業に

2017年「手話の普及への取り組みを行っている企業」として、認定を受けました。また、同年「大阪府ハートフル企業顕彰チャレンジ応援賞」を受賞しました。

■ 2019年7月には「本」も出版

クラウドファンディングで402名の支援者から、約260万円の寄付金を集め、『耳の聞こえない人、オモロイやん!と思わず言っちゃおう本』を出版することができました。

■ 2019年9月にはTEDxKobe 2019に出演!



写真上/NHK Eテレの「バリバラ」にも出演多数。2018年には姉妹音楽ユニット「チャラン・ポ・ランタン」と生放送で共演。写真右/京阪電車の駅構内に手話の写真を展示。



詳細はホームページをご覧ください。 >>> <http://www.oioi-sign.com>

団員募集中心!

パフォーマー/スタッフ 大歓迎!

「きこえる」「きこえない」「手話経験」不問

現在団員は30余名。きこえる人、きこえない人、学生、社会人など、さまざまな個性を持った団員がいます。毎週、新大阪でパフォーマンスの稽古をしております。私たちの活動に興味のある方はぜひ見学にお越しください。

やっぱり、活動していくためには「資金」が要るわけでして...

求む!! スポンサー

当団体のパンフレット・HP等に広告が出せます。ご興味おありの方はお声をお掛け下さい。



どこにでも伺います!



企業研修もやってます。一緒に「ノンバーバル・コミュニケーション」を学びましょう!

oioiのパフォーマンスが見たいとお声掛けいただければ嬉しいです!



『耳の聞こえない人、オモロイヤン! と思わず言っちゃう本』

星湖舎 定価1,500円(税別)



絶賛発売中!

Amazonでも買えますよ!



所在地：大阪市北区南森町2-2-7 シティコーポ南森町1103
事業内容：手話パフォーマンス、イベント運営、ワークショップ、情報発信等
設立：2016年4月
代表理事：岡崎 伸彦
U R L：<http://www.oioi-sign.com>
E-mail：oioi@oioi-sign.com